

增補
陸書

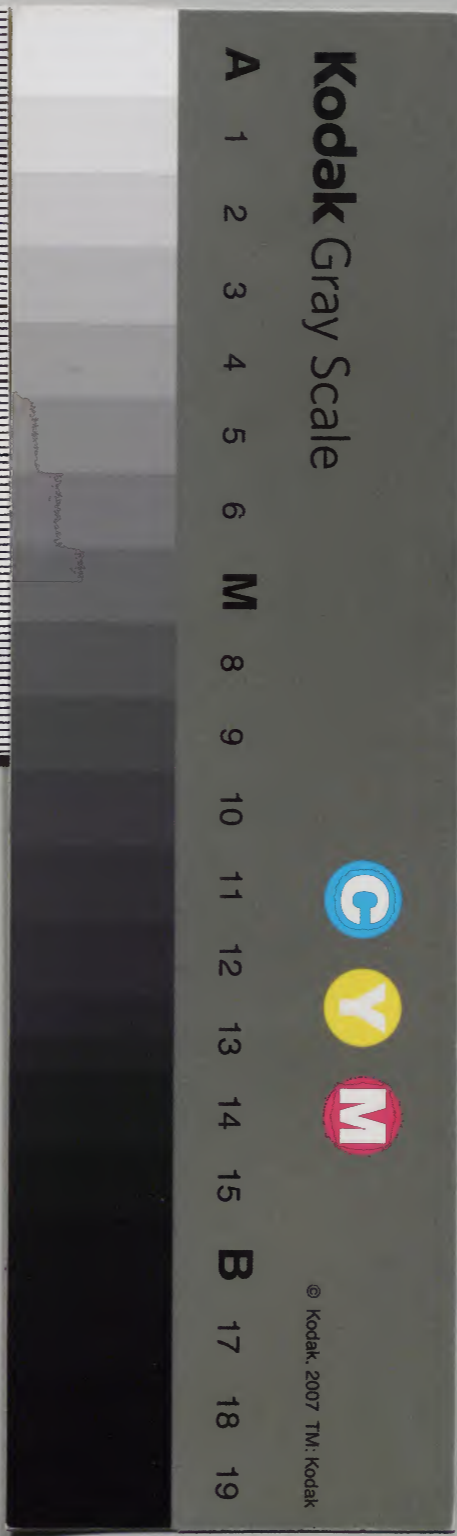
訓子圖書大生

三

五六一

| | | | |
|-------|---|---|---|
| 太政官文庫 | | | |
| 一 | 八 | 三 | 和 |
| 〇 | 二 | 三 | 書 |
| 冊 | 架 | 函 | 門 |
| | | 號 | 類 |

| | | | |
|------|---|----|----------|
| 內閣文庫 | | | |
| 二〇 | 八 | 番號 | 和 8237 |
| 函 | 二 | 冊數 | 10 (3) |
| 架 | 一 | 函號 | 210 |
| | 〇 | 冊 | ? |



頭書増補訓蒙圖彙卷之四

人物

此部小士農工商との不々異朝乃國俗を以て一さいの人類の類はわけるなり

明治十二年購求

○公こうのしん公こうのしん公こうのしん
 太政大臣たいていだいじん九大臣くしだいじん
 右大臣みぎだいじんとひだりだいじん
 内大臣うちだいじんとうちだいじん
 唐名たうなのだいしゅ大師だいしゅ大傳だいでん大
 保たへのくわん圖ずとくわん東とう東とう東とう
 帶たいのくわん圖ずとくわん東とう東とう東とう
 帶たいのくわん圖ずとくわん東とう東とう東とう
 帶たいのくわん圖ずとくわん東とう東とう東とう
 公卿こうけいのしき式しき禮らい乃の
 服ふくのくわん圖ずとくわん東とう東とう東とう



頭書増補訓蒙圖彙

○卿ハ公卿カガ
 大納言中納言ニ
 位以上ト公卿ト云
 又月卿トモイフ
 天子ニ侍スルハク
 故ノ左衛門ニ位以
 下ト公卿ト云
 卿トモイフハ
 ノ服ヤク裾ヨク
 下ニ一貴カク
 兼帯ハ一ヨク
 蒙衆ノ色ニ位以
 上ハ黒五位ノ赤六
 位ニ青色ヲ

西
 六
 三
 三
 三



○士ハ公卿ノ下
 学カシテ
 位ニアルハ
 母ナキト云
 女官トモ
 イフヤク叙ト
 叙ハ一甲胃ト
 看カスルハ
 武斗ト云ハ
 与衣言ト依
 四氏ト云ハ
 士農工商
 商人カガリ
 与衣ハ長衣ト云
 ツルカガリ



西
 六
 三
 三
 三

○ 嬰あや人始はてしむる
 父ちち嬰あや兒こと稱なづふ
 母ははと稱なづふ
 嬰あやと云いふ男おとこと兒こと云いふ
 ○ 童わらわ男おとこ十五じゅうご以下以下と
 童わらわ子こと云いふ童わらわハ獨ひとり
 多おほくク言いふ室むろ家や
 少おほくク言いふ室むろ家や
 事ことカケテ
 ○ 翁おきなハ長ちやう老らうの稱なづふ
 人ひとの父ちちと稱なづふ
 翁おきなと云いふ雙ふたご同どう



類聚 卷之三 文部 卷之三

○ 女めハハははと云いふ
 母ははと稱なづふ
 女めと云いふ女めハハははと云いふ
 ○ 妾めかけハはと云いふ
 女めと云いふ女めハハははと云いふ
 ○ 早はや婆ばと云いふ
 老らう女にょと云いふ



○兵の具の
 惣名あり
 今甲冑と
 帯とる武士
 を兵といふ
 中へり
 戎同
 頭なる者
 持する者
 と士卒と
 又軍士
 軍兵
 軍勢の士卒の
 惣名あり



兵の

○農の具の
 惣名あり
 百穀とるもの
 事なはれを
 するもの
 作するもの
 との又神農
 五穀と植
 するもの
 農といふ
 づるもの
 づるもの



農の

○高たかいひじつたん人
 又またわきびとと
 居ゐるからう賣うて
 買かひのしらら
 けして
 うまい高といふ
 商しやうと書べし
 高たかといふ
 わかまんなり
 高たか買かいの
 高たか買かいの
 人ひと乃すなはちたり
 販はんといふ
 賣うる事
 買かひを

○工くわのひ百ひゃく工くわといふ
 細こま工くわ人ひと
 乃すなはちたり
 工くわ匠しやうといふ
 本もと工くわのひ大だい工くわといふ
 漆しやく工くわ
 塗ぬ師し也なり
 其その外ほか指さし物ぶつ
 法ほう花はなといふ
 緞けん布ふ織オリ物ぶつ
 金かねといふ
 是こゝでいふ
 是こゝでいふ
 もろいとい



東洋雜記

○膳夫の服部
 料理人なり
 庖丁といふ人
 解事候なり
 今との名と
 又の
 入膳夫なり
 庵丁といふ
 あり



膳夫
 かいせ

○醫の病と治
 ありく薬と製
 舟氣といふ医家
 の心は赴き
 又著といふ



醫
 くし

○畫工の繪師
 唐の唐の名
 画のまゝありて
 びどろくにや
 めるべ目朝
 巨勢の金剛
 古法眼元信入
 雲舟あしひじ
 の名画あり中
 古の永徳探幽
 答とのわあき
 あとともこれ
 累と土佐家
 禁裏のいゆ
 あり



○祝の祭に賛
 詞とつと
 者
 非
 カ
 つ
 つ
 石
 ち
 こ
 に
 夕



貞吉曾補判事大目録

○僧の浮圖乃
 教にたゞる者
 かなんか
 門比丘
 又僧正僧都工
 人尚長老を
 僧正の圖師
 大師号あり
 ○尼の女僧か
 比丘尼より佛の
 四部の才より
 尼姑もつゝ
 出家門より
 僧官異あり



○鍛の磨あり
 推鍊なる
 金冶活
 少く鉄と
 鍛治と
 鍛治と
 鍛治と
 鍛治と
 のやゆり
 鍛治と
 鍛治と



頭書曾補別業圖三果卷四

佛の西方の
 聖人かろ
 佛の東方の
 聖人かろ
 佛の南方の
 聖人かろ
 佛の北方の
 聖人かろ
 佛の中央の
 聖人かろ



佛の西方の

佛の東方の

樂の八音と
 樂の八音と
 樂の八音と
 樂の八音と
 樂の八音と
 樂の八音と
 樂の八音と
 樂の八音と



樂官

俗人

○傘工の雨傘の日
傘挑灯と云ふ
さくく人あり
○皮匠の今又
袋屋カと云ふ
又四角屋と云
皮さくとも人
ともいふ
○針磨の京師
小路の名物り
今之象寺町の
名に多くある
すべとの者も
よく針と云ふ
賣りぬるより

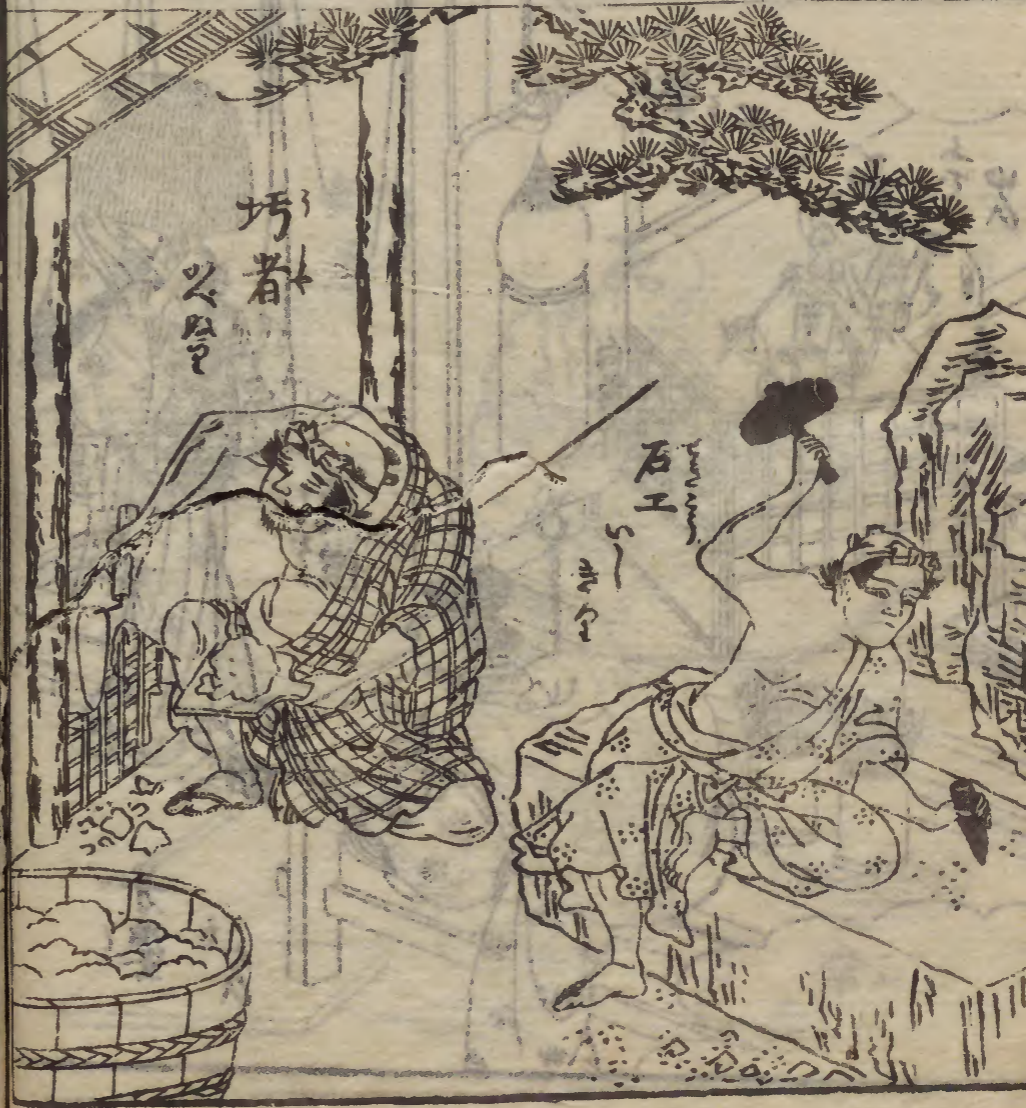
○牙婆の今又
あひかり衣
ねとともいふ
うらとともい
か
○筆工の筆
筆はもろこし
て炭帖といふ
はうりといふ
○薦僧の梵論
もの梵論字漢
字ともいふ又
書とも書か
八と云ふ諸玉
めと云ふ



頭書川東園集四

頭書川東園集四

○石工の石と切て
 石垣石燈籠
 橋石塔等
 ありのありあり
 器仗つて
 人とも
 對とりつく
 へる
 ○巧者へ今
 た宮あり
 とも泥
 匠とも
 巧へ
 電も
 とる



相撲使
 ○相撲の乃見
 宿称と
 搬速と
 角抵と
 脅力と
 角抵と
 脅力と
 角抵と
 脅力と



相撲使
 角抵と
 脅力と

○ 倭儒の心は極
 きんとし今つふ
 一寸やじあり短
 んしつゝ
 ○ 死背のせいしん
 医書ふくは死背
 とし人の背のせなる
 と素駝のしんじる
 にいさるあせむしの
 人と死背との並
 ○ 死辱の缺唇
 死辱のせいしん
 死辱のせいしん
 死辱のせいしん
 の死辱のせいしん
 死辱のせいしん
 死辱のせいしん



死辱のせいしん

○ 扇工
 ふくは舞と
 つみみとはかり
 とつあめり
 日本はくわい
 神功皇后の
 とら編蝠の細
 てんくつかり
 とつあめり
 扇工
 漆匠
 とつあめり
 漆匠



扇工

○登人の海中
 長布のしほ
 女の業かろ
 又煙くむ女
 海人とも言
 日トれ
 かんき



登人

○釣更
 日中ふも休代
 又いづと海
 魚子漁
 魚子漁
 魚子漁



釣更
魚夫

○ 賢者 月が丸
 の多り 育
 目盲 人
 論語 小見
 者 賢者 之
 又 琵琶法師 之
 三 法 之 三
 今 之 琴
 檢 校 之 書 四
 分 之 一
 之 一



○ 賢者 月が丸
 の多り 育
 目盲 人
 論語 小見
 者 賢者 之
 又 琵琶法師 之
 三 法 之 三
 今 之 琴
 檢 校 之 書 四
 分 之 一
 之 一

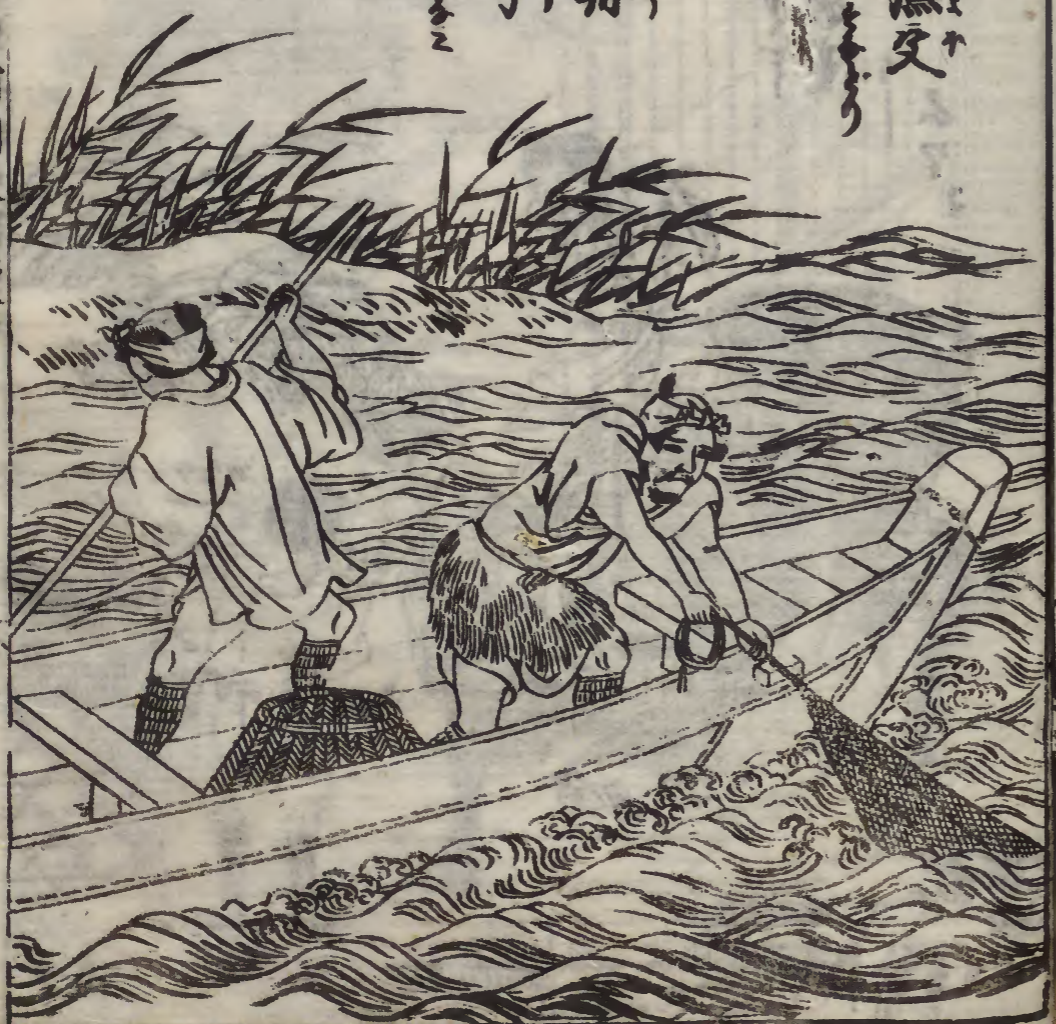


賢者 月が丸
 の多り 育
 目盲 人
 論語 小見
 者 賢者 之
 又 琵琶法師 之
 三 法 之 三
 今 之 琴
 檢 校 之 書 四
 分 之 一
 之 一

漁父の歌
 漁父の歌の
 方々煙人氏の
 世ふ天下に水
 舟子ハ今ハ
 船頭さん海
 と彼と舟子
 又笑ユと棒
 舟子ハ今ハ
 舟子ハ今ハ
 舟子ハ今ハ

販婦
 販婦の歌
 販婦の歌
 販婦の歌
 販婦の歌
 販婦の歌

漁父
 舟子



舟子ハ今ハ
 舟子ハ今ハ
 舟子ハ今ハ
 舟子ハ今ハ
 舟子ハ今ハ

販婦
 販婦の歌
 販婦の歌
 販婦の歌
 販婦の歌

鏡造鏡と
 天の標戸と
 天照之神
 の市代と
 うらたてて
 つつりあふ
 鏡の姿善悪
 とつるもの
 曲直は
 正しぬらん
 鏡を
 照らすもの



牧童の廣野
 牛馬
 に牧と
 豊かり牧童
 遠指杏花
 村と詩ふ
 も他より
 笛吹
 うらたてて
 又將ふ牧童
 笛倚牛吹
 うらたてて
 此の



又縣王もい
 詩吟師と
 りも此類の
 の力を
 舟人の渡
 守り
 大河小川と
 舟はくじ
 ふのきしへ
 そものあり
 大河の中
 舟にまは
 つまの人の
 たもひと
 ありかり



頭書 舟人 渡り

○婿婦の信憑と
 てその樂と奏
 の多り婿の候
 から信と書
 又信披るもい
 是じの事
 今へ他てりな
 て雨あつと中
 指まといふの
 今へ遊女奔ま
 方との終るん
 極入極園カ
 づいこの別
 せいんひ
 のりさした
 舟人あり



頭書 遊女

傀儡師の
 人形は
 の事あり
 ぞくぞくと
 又、路路
 どのへあり
 毎年正月よ
 うきうき
 遊幸はてこの
 のかへす
 田楽法師と
 ういふのわり
 ういふのわり
 名をうと
 まり



傀儡師
 てんごう

駕輿丁の
 事多
 藤二と流
 て大なる男
 まうやう
 流酌
 浪人とも
 こまとして
 浪も
 人の重
 言のや
 刀を



駕輿丁
 浪人

東洋の海山と云ふ
 平

○車借の車つひの事多しおれおの川ふあらし庭訓にえらう今んさご其外おにわると天子の直つひと御者とも徒御とも合人ともいふ

○問丸今今今問丸の事あり香受の相場毎日常問丸とる者あり

○馬借の馬奴又の馬口券ともいふ大津坂本の馬借と庭訓にあり今いささしとる借といふ二口券といふの別ふありて牛との賣買れととる者あり

○伯樂の馬の病とてとらちとらん狐伯樂といひついで京室町のけりよや室町の伯樂と庭訓を



東海道新三木

東海道新三木

○土器の京
 西山燧我
 又北山烟枝
 下深草を
 土器師
 にも差我
 ○大原の黒木女
 京北山大原
 の女黒木といふ
 きたる京に出て
 わさか入事へ
 平九惟盛
 の妻河波の内お
 平家亡びて後
 てせり
 のうの妻といふ
 人を嫁せり
 その不八
 又の雲が烟る
 雄の梅が細
 日く女木葉
 とわさか入事
 ○屠者牛馬の
 肉と屠割の
 あり今
 穢多かる
 又屠野
 あり



○中國中華と漢
 唐より入るを漢
 唐より明とひいし
 靴ふきかひい今ハ大
 清より入るを清
 ○朝鮮國ハ
 韓と云ふ國あり新羅
 百濟高麗と云ふ
 今ハ二國も多日本小
 毛と云ふ

○天竺ハ仏教の
 大國の天熱國
 かん國ハ聖水の
 風濤と云
 商人琉璃の壺ハ
 水と云ふ
 ○蒙古鞑靼の二種
 ありむ日本攻め
 神風吹破らむと
 かり是と蒙古國
 市と云ふあり
 ○肅慎ハ女直とも女
 真とも云ふ國人
 多し道とゆふ事
 鳥のそとと云ふ
 てわしと名づく



頭書 諸浦川 蒙古圖 庚申

廿五

占城へちんせん
 占城は安南に近
 き國かゝる大衆
 多しふ不鮮五
 公事詔勅の者
 ありて理非分明
 かなば鮮よあふ
 科あつものへ鮮と
 まん食とつり
 安南國の交趾
 とも東京とも云
 男子の盜とこの
 女の淫とこのひ女
 をめしつる不媒は
 ちつらつわひ合國
 に内桂あり他國

占城はちんせん
 占城は安南に近
 き國かゝる大衆
 多しふ不鮮五
 公事詔勅の者
 ありて理非分明
 かなば鮮よあふ
 科あつものへ鮮と
 まん食とつり
 安南國の交趾
 とも東京とも云
 男子の盜とこの
 女の淫とこのひ女
 をめしつる不媒は
 ちつらつわひ合國
 に内桂あり他國



東番
 暹羅
 安南

占城

○南蠻へ阿媽港
 人あり向蘭港
 ば類かんをて
 南の嶋國とある
 本んとつ小其品類
 多くありて人物
 種々にころまり
 西の多びも西
 戒といふ是もその
 数多くありて
 ○東夷へ蝦夷人
 あり人物勇猛に
 志て常小山野
 少て獸と射り
 補ふちう
 又ハ海中の魚類
 とりて食とを

惣として中國より
 東にあり島國
 東夷といひ西
 嶋國と西戎といひ
 南にありは南蠻
 といひ北にありは
 小狄といふ
 ○呂宋なるはもと
 て中國小ちうき
 玉ありてく哭品と
 判衣一箱とあり
 といふ
 ○長脚ハ足多
 國ありてくち
 幸獸のこじ

東夷神言圖

南蠻
 みまの
 多びと

東夷
 ひびの
 多びと

呂宋
 るとん



長脚

わか



長脚の神言

七

○崑崙崙へ西南の海中に嶋國也そのへ物を色々きこと黒漆に似たり海底に在り自由狐多とまことくく死ふのぢるこく瓜得たりとよろく異國の渡海の船ふへろ多此崑崙崙とまことづりといふ世の色黒きものと崑崙崙坊といふあり

崑崙崙



頁上白田川及水國等四

○長臂國の東海のあぬらふ多國人多かくして地ふさる布衣とまこと長一丈三尺八寸又臂かきくふもわくと無臂國といふ又臂はくあり二臂國あり

長臂國



○小人國此國東方にあり身の長九寸又二尺五寸とものひは國は鶴の如くも鳥ありて小人と云り之ら此國をされてひらりめりしかあきしらすきたらゆくと云り
 ○長人國のひし明加の人難風ふ船と吹かざるをてあか島にひらり人の長一丈余ありて水とわらうとあり



長人國

小人國

